

～上海府地区青少年健全育成会からのお知らせ～

# 子どもたちの見守りにご協力を！

新潟県では、毎年11月を『子ども・若者育成支援強調月間』として、県民ぐるみの青少年健全育成運動を推進しています。村上市内でも、村上市青少年健全育成市民会議を中心に啓発活動が行われます。



村上市内では事件にはつながっていないものの、多くの不審者情報が寄せられています。交通事故や不審者から守るため、**子どもたちの見守りにご協力くださいますようお願いいたします。**

地区育成会では、散歩や農作業をしながら子どもたちの見守りを行う「**ながらパトロール**」に取り組んでいます。皆さんの日常生活の範囲内で結構です。地域全体で子どもたちを守り、育てていきましょう！

## 地区の情報コーナー

集落や小学校の行事など地区のできごとを紹介します！

### 伝統文化継承事業「タコだまし漁体験」(10月17日)

町づくり推進委員会では、伝統文化の継承と世代間交流を目的に、上海府小学校全校児童と瀬波小学校3年生を対象とした「タコだまし漁体験」を行いました。講師から説明を聞いた後、子どもたちは海へ移動して伝統漁に挑戦。疑似餌の付いた竹竿を海中に入れ、タコをおびきよせようと懸命に岩場をつついていました。

なんと、実際にタコを捕まえることができた児童もいて、上海府地区の伝統漁について理解を深めてもらうことができました。



### 野潟集落「転倒予防教室」(10月17日)

野潟集落では、村上市介護高齢課委託事業である「転倒予防教室」を開催しました。当日は、14名が参加し、講師の指導のもとイスに座りながらも出来る運動や、テニスボールを使ったレクリエーションを行いました。参加された方からは、「久しぶりに汗をかいた」や「楽しかった」との声が聞かれました。



心豊かな人づくり  
人と人との出会いを大切に  
**上海府**  
かわら版



第357号



# 上海府地区文化祭・芸能祭

10月14日（日）、上海府小学校展覧会と合同で地区文化祭・芸能祭を開催しました。

## 作品展



作品展には、地域の皆さんの力作とともに、瀬波保育園児の作品が展示されました。

企画展示は、「思い出の上海府小学校写真展」を実施。思い出のつまった写真がたくさん並びました。

## 新発田自衛隊音楽クラブの演奏



毎年大人気の食推試食コーナー。今年は、「野菜たっぷり減塩健康バランス食」と郷土料理「タコめし」がふるまわれました。

## 食推コーナー



## 仮装ショー



## 小学生の野菜・米販売

1・2年生教室は、学校菜園で採れた野菜や米の販売、喫茶コーナー、永井松栄堂さんによるお菓子・パン販売で賑わいました。

## 芸能祭



芸能祭は、閉校記念イベントとして小学校PTAの仮装ショーが行われ、上海府の四季をイメージした手作り衣装に身を包んだ児童と地域住民がひとつになり会場を盛り上げていました。その後は、地域の方から小学校教職員、プロの演歌歌手まで歌や踊りなど6演目が披露されました。

来年も盛大に開催できることを楽しみにしています！



発表!

# 第5回かみかいふ写真コンテスト

受賞作品が決定しました!



↑文化祭で応募作品の展示と投票を行いました

54点ものご応募をいただいた「第5回かみかいふ写真コンテスト」。気になる開票結果の発表です!今年の実賞作品は下記の通りとなりました。受賞された皆さん、おめでとうございます!



## 大賞「うしろ!うしろ!」

瀬賀真亮さん

～投票された方のコメント～

- ・何げなくふりむいたのだろうか、よくとれていた
- ・子どもの顔の表情がとてもよい。



優秀賞「半分、赤い。」

三浦涼子さん



優秀賞

「みんなの夢をのせて」  
佐藤邦夫さん

※どちらも同じ得票数であったため、佳作に代わり優秀賞2点となりました。

## 審査員賞「海府の海女ちゃん」 星野恒夫さん

「上海府らしさ」を感じる写真を選ぶ「審査員賞」は、文化祭当日、当会の審査員により選ばれました。



素敵な写真ばかりでしたので、投票された方は、どの作品に投票しようか悩まれたことと思います。今年も、写真を通して、上海府の魅力を確認することができた写真コンテストでした。応募者の皆さん、ありがとうございました。



## テーマ部門賞「柏尾の夕景」 加藤栄一さん

～投票された方のコメント～

- ・柏尾ではないきれいさでした。
- ・幻想的な色あいがすてきです。



# 砂丘短歌会 く今月の一首く

上海府かわら版では、上海府地区の短歌教室

『砂丘短歌会』の皆さんの作品を紹介しています。

短歌教室の皆さんの力作をご覧ください。



刈り入れの済みし田の面を眺めつつ何故か淋しき秋深まりぬ

(鈴木昭作)

朝光にあきつ連なり飛び交いぬ<sup>かせ</sup>台風来る前の静かな朝に

(井上スミ)

災害の数多ある中ノーベル賞受くとのニュースに日本は湧きぬ

(太田美也子)

葛の花咲き満ちる頃タコ漁の最盛期だとじいさん話す

(小野静江)

秋の日々陽足短く多忙にて短歌詠むのも忘れがちなり

(佐藤良子)

平成の最後の年に両陛下島々訪ね心寄せおり

(佐藤壮子)

寄り合いて支え合いつつ頭垂る黄金色なす稲田の美<sup>は</sup>しき

(加藤五三子)

## 今後の予定

### 11月の予定

17日 移動図書館巡回日  
20日 町づくり推進委員会理事会  
環境安全部会会議  
地域活動部会会議

### 12月の予定

1日 上海府小学校閉校記念式典  
9日 移動図書館巡回日

ほけんし・なかむらの

### 「HOT ほっと ひといき」コーナー

最近…感じたこと！！  
後輩が、次から次に結婚して…話になるのが夫のこと。  
自分も以下の思いで経験してきたよなあと…。

最初の頃は、新婚の情熱の中でなんとなく済んで行くことも、そのうちお互いの心に引っ掛かるようになる。  
些細なことで、なぜそんな言い方をするのかとか、どうしてそれが問題になるのかなどと、いざこざが起こり出す。  
これに家族が介入すると問題は更に複雑になる。  
しかし、これは異なった「家風」という価値観の中で育てられた二つの人格であるから、むしろ当然なのかもしれない。

多くの場合、それはさまざまな形で克服されて行く。  
子どもができて「親」という共通の立場と一体感の中で解消されるものが多いと思うが…

夫婦って、ここを乗り越えていくことで夫婦になっていくのかな。



(地区担当保健師 中村 みゆき)